



確かな学力の向上をめざして【5月】

■学習評価で大切にしたいこと

いよいよ小学校では今年度から、中学校では来年度から新学習指導要領が全面実施となります。学習指導要領に示す内容が児童生徒一人一人に確実に身に付いているかどうかを適切に評価するためには何が大切でしょうか。今回は、学習評価の進め方について再確認します。

1 単元の目標を作成する

2 単元の評価規準を作成する

3 「指導と評価の計画」を作成する

Point

単元の指導計画を立てる前に、その単元におけるそれぞれの観点で育成を目指す資質・能力をしっかりとつかむことが重要です。

どのような内容を指導、評価することが必要なのか学習指導要領解説や「指導と評価の一体化」のための学習指導に関する参考資料を確認し、具体的にイメージするようにしましょう。



指導と評価の計画(例) 小学校 算数「余りのあるわり算」(第3学年「A 数と計算」)より

時間	学習活動	評価規準(評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	余りがある場合でも除法を用いてよいことや、答えの見つけ方を具体物や図などを用いて考える。	「・」指導に生かす評価	・思①(行動観察、ノート分析)	・態①(行動観察、ノート分析)
2	余りがある場合の除法の式の表し方や余りなどの用語の意味を知る。	・知①(ノート分析)		
3	余りと序数の関係を理解する。	・知③(ノート分析)		
4	等分除の場面についても余りがある場面の除法が適用できるかを考える。	「〇」記録に残す評価	〇思①(行動観察、ノート分析)	

努力を要する児童生徒の学習状況を把握し、その後の指導・支援につなげる。

総括の資料にするために、全員分の評価を記録に残す。

総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会を精選するとともに、指導に生かす評価と明確に区別しましょう。



授業を行う

Point

1時間の授業の中のどの場面(評価場面)で、どんな児童生徒の姿が見られれば「おおむね満足できる」状況と評価するのか、また、その評価資料をどんな方法で収集するのかを計画しておくことが重要です。



4 観点ごとに総括する

1単元、1時間ごとのゴールイメージをもち、指導と評価の計画を立て、見通しを持って授業を行いましょう。